

「活動の概要と研究成果」

NO.J2322

活動題目： 中部ジャワの影絵人形芝居ワヤン・クリッにおける
女性ダランの活動の実態と上演の特徴

所属： 総合研究大学院大学 文化科学研究科 比較文化学専攻博士後期課程

氏名： 岸 美咲

本研究は、中部ジャワの影絵人形芝居ワヤン・クリにおける女性の人形遣い(ダラン)の研究である。ダランは人形遣いとどまらず、語りや音楽の演出、時には儀礼としてのワヤンの上演の進行も担う重要な存在である。ダランに関する研究は文化人類学等様々な分野において研究の蓄積があるが、先行研究では、ダランは芸術家の家系出身の男性であることが前提とされてきた。しかし、この数年の女性ダランの活躍は看過できないものとなっている。

本研究では、ニ・ルミヤティ・アンジャン・マスNyi Rumiya ti Anjang Mas(1946-)、ニ・クニ・アスモロワティNyi Kenik Asmorowati(1980-)、ニ・エリシャ・オルチャルス・アラッソNi Elisha Orcarus Allaso(1993-)の3名の女性ダランに取材し、①ライフヒストリーの記述、②上演の特徴の分析、③彼女らがいかに社会の変化に対応してきたかについての考察を通じて、彼女たちがどのように活躍の場を広げているのかを明らかにすることを目的とした。

本研究は、2023年11月15日から2024年11月11日まで、インドネシア中部ジャワ州スラカルタ市を拠点にフィールドワークを実施した。現地では3名の女性ダランに加え、彼女たちと関わりのある計55名(ダラン、演奏家、ファン)にインタビュー調査を実施した。加えて、国立芸術大学スラカルタ校およびジョクジャカルタ校の授業、ワヤン上演の参与観察、さらに過去の上演の録音の収集と彼女らの上演の特徴の分析を行った。

調査の結果、従来の家族における伝承に加え、芸術大学が芸能者のコミュニティの形成や上演のスタイルの発展に重要な影響を与えており、女性ダランの活動を支える一つの基盤になっていることが分かった。また、インターネットの普及により、ファンコミュニティの形成が進んでいることや、ワヤンの聴取の仕方が変化しつつあることが明らかになった。さらに、上演における女性キャラクターについては、三者三様の演出をしており、女性に対する考え方やダランの上演は多様化が進んでいると考えられる。